

氏名：早川 将史

専攻・学年：工学部物理工学科機械システム学コース・3年生

派遣国：アメリカ

派遣先(研究機関名)：University of California, Davis

受入研究者(職・氏名)：Professor Janis Williamson

派遣期間：2011年8月13日～2011年9月5日(24日間)

派遣先での研究テーマ：京都大学共同企画 実習型 夏季短期留学プログラム UC Davis (カリフォルニア大学デービス校) EXTENSION

(UC Davis EXENSION, Kyoto University English for Science and Technology Interdisciplinary Research Program)

### 【研究実施概要】

カリフォルニア大学デービス校において工学・農学・経営管理の三分野からなる分野融合型の講義とオフキャンパスでの課外研修に参加した。また英語運用能力を高めるための講義にも参加し、課外研修のための準備、最終プレゼンテーションの準備などを行った。

課外研修では「起業と新しいベンチャー」というテーマに沿って3つの施設を訪問した。

最初の訪問先は Micromidas というベンチャー企業で、ここでは汚水処理によって生じる汚泥から微生物を用いて生分解性プラスチックを製造していた。企業担当者の方からそのビジネスモデルについて、製造の仕組みについて、会社概要についてなどの説明を受け、起業に関するいくつかの質問に答えていただいた。

2つ目の訪問先は大学内の経営管理大学院にある UCD Center for Entrepreneurship で、大学院の教授による起業に関する講義を聞き、起業をするに際してどのようなことに注意すべきかなどの質問をした。

3つ目は Octus Energy という顧客のエネルギー消費の効率を上げるための解決策を提供する地元ベンチャー企業でビジネスモデル、今後のプラン、ベンチャー企業で働くとはどのようなことか などの質問をした。

また、分野融合型の講義ではエネルギー利用の効率化についての講義、地元のクリニック訪問および米国の医療・保険事情についての質疑応答、そしてデービス市役所においてデービス市の歴史/都市計画についての講義をそれぞれ1週間に1回ずつ受けた。

これらの研修で得た知識や独自の調査に基づいて最終日にテーマで分けられたグループごとに英語での30分ほどのプレゼンテーションと質疑応答を行った。プレゼンテーションでは起業とベンチャー開発というテーマをさらに細かな5つのサブピックにわけ、一人につき1サブピックを担当してプレゼンテーションを行った。

私の担当はファイナンスでベンチャー企業の資金の集め方、使い方、起業の様々なステージでの資金繰りに関する問題など、研修先で学んだことをメインに発表した。

### 【研究成果概要】

研修先での質問はあらかじめ講義や、講義時間外の自由時間にグループ内で相談して決めていたため、グループのプレゼンテーションに必要な情報は訪問先で十分に得ることができた。質問する際の英語の文法なども講師に添削してもらったりして、比較的スムーズに訪問先での質問をすることができた。

このプログラムの最終目的は与えられたテーマについてのプレゼンテーションを完成させて発表することで、最終日の発表会においてそれは達成できた。プレゼンテーションは講師たちによって採点され、採点項目は Organization, Subject Knowledge, Visual Aids, Mechanics, Eye Contact, Verbal Techniques, Group Work の7つで28点満点で採点された。結果は28点だった。

### 【外国語のスキルアップ・コミュニケーション能力の向上, 海外におけるネットワークづくり】

英語のスキルアップという点では、プレゼンテーションのための発音練習、英文資料のリーディングなどが非常に役に立ったと思う。

分かりやすい発表をするために、聞こえやすい声の大きさ、アイコンタクト、姿勢、ジェスチャーなどに気をつけて練習を何度かしたので、今後何かの発表などをしなければいけない際にはこのようなスキルが活かせると感じた。

訪問先では特に、企業や施設の担当者と英語で日常会話からテーマに沿った質問をしなければいけなかったので学校で学んだスキルを実践することができる良い機会であった。

### 【派遣の感想】

今回のプログラムは英語のスキルアップのみならず、それぞれのテーマやそれ以外のアメリカにおける諸問題などについての知識を深めることができ、とても有意義だったと思う。ホームステイすることによって現地の人たちとも触れ合うことができ、貴重な経験をすることができた。

休日は周辺の観光などをして有意義に時間を過ごすことができた。ただ、今回は現地に到着したのが日曜日だったので観光などができる週末は2回しかなかったので、金曜日到着などにしてもらったほうがよりアメリカの文化と触れ合う時間が確保できて良いと思う。

また、全ての講義が京大生のためのクラスで行われたために他の学生達と交流する機会が少なかったため、今後は英語の発音・文法授業などに限っては他の学生と混ぜて受講するというのも良いのではないかと感じた。

ただし Extension Center では他の国からの学生も多数いるので、自由時間などに異文化交流をすることは可能だった。